

アイドルドスケベ♡

R18
ADULT ONLY
成人向け作品につき
18歳未満閲覧禁止

エロエロ洗脳
ライブ開演だよ♡

便器

Yos
こ主人さ

はなみちタウン

みんなを
放してっ

あは
♡

フフ
♡

バカですか？
放すわけない
じゃないですか♡

邪魔は
ダメだよ♡



キムンキムン

レーザー♡

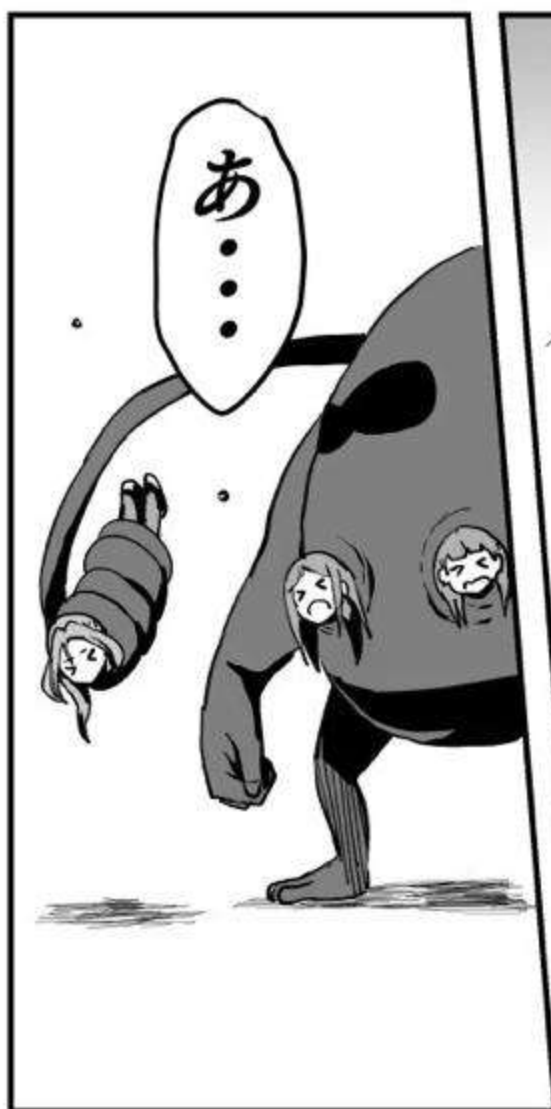


あはは♡
アイドル♪

本当に私達が
誰が分から
ないんですね♡



あなた達
誰なの
なんでこんな
こと……



あ……



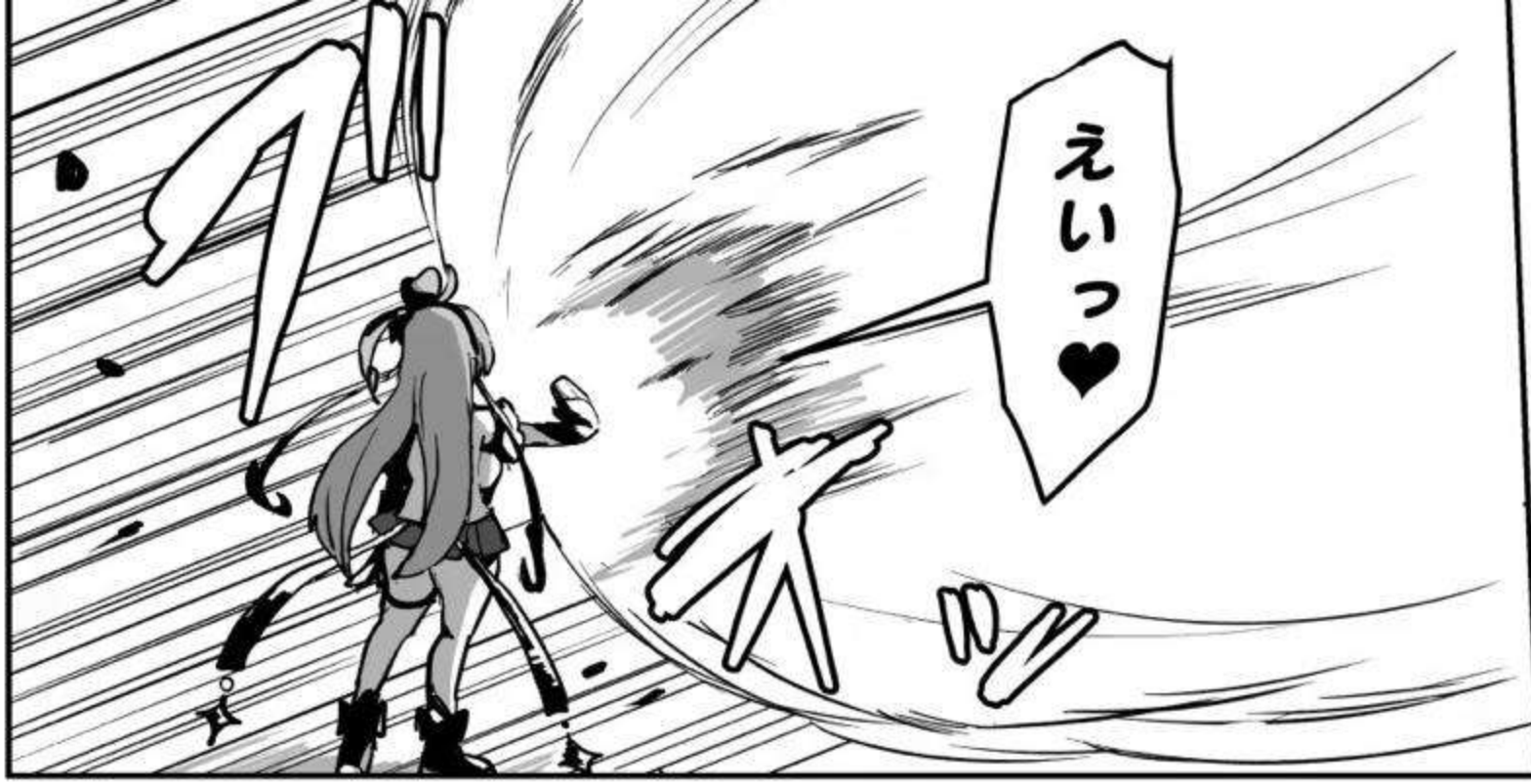
い……まの



あー
うん

し……





マペニランド

それで前の王様は
牝をマペニ族に
変えることを
禁止にしたの♡

ヒドイよね
こんな
素敵なこと♡

んく好きい♡
ご主人様あ♡

うたちちゃん♡
みんなマペニ族に
繁栄をもたらしゅ
エロアイドルになろ♡

なな先輩も
私も♡

ペニサオ様に
マペニ族の牝に
してもらったん
ですよ♡

マペニの王
ペニサオ様♡私達が
全てを捧げる
ご主人様で♡

ドスケベアイドル
プリキュアの
プロデューサー♡

こころ

私たちは
この人に永遠の
忠誠を誓ったん
です♡

なな
ちゃん…



でも

体はめちゃくちゃ
エッチになるから
スグイケますよ♡

これが
イクッ♡

ほっ

んおあ
おまおあ

うたちゃんの
初アケメ
エロ可愛い♡

では
この後
うた先輩には

マペニでの
ドスケバアイドル
活動に参加
してもらいます♡

舐めてるだけで
イキそう♡

そうすれば
きっとこの
素晴らしさが
分かると思うから

おひんほ様♡
美味しすぎれす♡

おひんほ

おひんほ

おひんほ

おひんほ







坊ちゃん
ご主人様の
息子さんの
♡

ズキューンは
坊ちゃんが
墮としたんだよ♡

どうしても
欲しいと
せがまれてなあ

へっ♡ちんぼ汁
イグっ♡

ん♡ザー汁♡
もったいない♡

坊ちゃんは
ご主人様より
ずっと気が短い
んです♡

あん♡



フフ♡キッスが
あのままなら
きつろ始末され
ちゃうと思うな♡

エロちんぼ様
嗅ぎながらの
ザー汁キス
やばっ♡

坊ちゃんを
止められるのは
ご主人様だけ…

びく♡



うた!
私のことは

この意味
うた先輩れも
分かりますよね?

んっ!!

マペニランド
第一ホール

すでに
会場の準備は
整っています

クイ

田中さん!?

なんで…

洗脳して
奴隷として
使っているに
決まっている
じゃないですか

こんなの
常識だよ
うたちゃん

奴隷になった
他の種族の
オスは

ちんちんが
縮んで交尾
できなくな
るんです

おっ

グッ

グッ

みすぼらしい
ちんぽ…

本来物と交尾して
いいのはマペニの
オスだけだから
合理的だよ

ねえ

今日のライブも
いっぱいシコって
下さいね

ほっ

もう田中さん
でちゃった
からw

田中さんも

あはは

大丈夫
あのペニサオ
とかいうやつさえ
なんとかすれば
きつと…

私が絶対
みんなを
助けるんだ

そこから
始まったのは
ライブなんて
名ばかり

もっろあゝ
夢中に
なれりゆねえ♡

精液
らへ♡

ハメて

おまんこセックス
イエス♡
キュンキューン♪

キュンキュン
まんこ最高

ファンを交えての
大乱交H

歌って…

ウインク
でるっ

だすっ

くっさい
ちんぼ汁シャワー
ライブすき♡

ぶっかけて

みんなの
エロ汁で
プリキュア
イグっ♡

ちんぼ



新しい
プリキュアも
エロかわ

ハメられて

その調子だよ
キュアアイドル♪

ううん♡

中出し...



その次の日も

歌って♡腰振って
まんこイクッ♡

次の日も
ドスケベ
アイドル活動





あい♥
はい♥

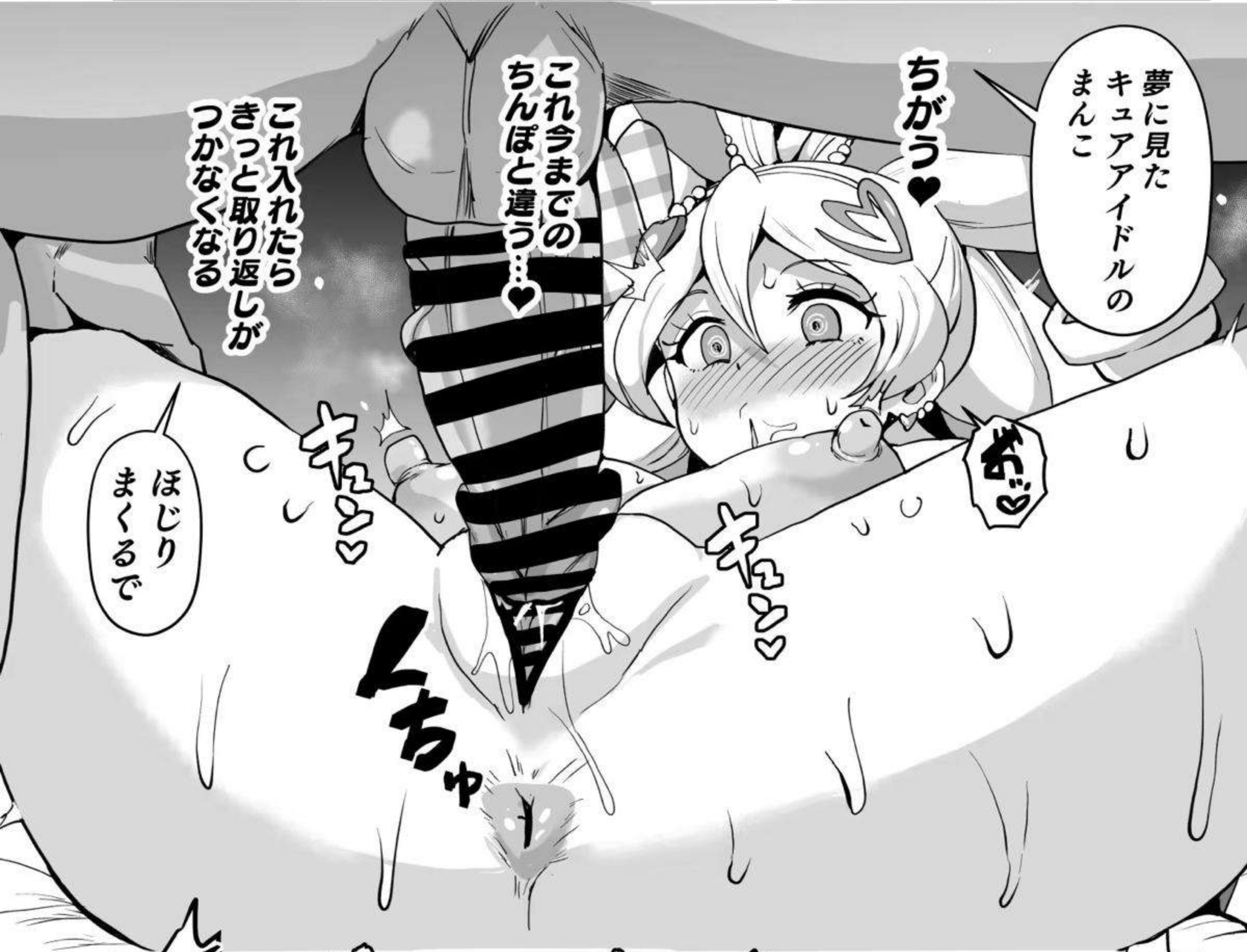
あれ?待って
私:♥

今♥ちゃんほ
見ただけで
まんこイッた?



一目見てから
ファンなんや

楽しませて
もらおうぞ



夢に見た
キュアアイドルの
まんこ

ちがう♥

これ今までの
ちゃんぽと違う:♥

これ入れたら
きつと取り返しが
つかなくなる

ほじり
まくるぞ

んちゃ



ごめんなさい

まっ...



わあ〜♡

マジか…

アイドル
大胆♡

初めて見た



あれお持ち帰り
OKのだいしゅき
ホールドキスだぜ

おもちかえり?!

ギュー♡

なんかよく
分からないけど
この人しゅき♡

もつと中出して♡
精子欲しい♡

ちゅわん♡

羨ましいな〜



嬉しいで
キュアアイドル
たっぷり
可愛がったる

ホテル
行くで

うん♡



せっかちやなW
風呂とか
ええんか？

いい♡
早くセックス
しよ♡

ちんぽ♡
うっま♡



ほんとキユアまんこ
具合ええの
腰がとまらんわ

やっぱり全然違う♡
ちんぽ気持ちいい♡

最高♡おじさんの
ちんぽしゃいこう♡



激しくするぞ!!

ほんまおじさん
しゃい♡

ダメ♡
変身とける♡
イクイクイク♡



おじさんのセックス
凄すぎて私の全身
キラッキランラン♡

そうかそうか
けどまだやで
うたちゃん

おじさん好き♡
大好き♡

これから行くところで
もっとキラッキ
ランランにしたる



本当♡やった
行く♡

どこでも
行く♡

帰ったで



お帰り
なさいませ♡

好き♡

ん♡

ん♡



ご主人様の
ちんぽ♥
気持ちよかった?
うたちちゃん♥

あははうた先輩が
完全にメロメロに
なってます♥



まだ
気が付かないん
ですね♥

あん♥



え?
え?
こころ
ななちゃん
なんでここに...

クク...



こいつは
着けとると
他人には誰か判別
できなくなるんや

便利やろ?

前会ったときは
これつけとった
からな



同じアイドル
プリキュア
れすから♡

はい♡



れもやっぱり
うたちちゃんも
ご主人様
らったね♡

ん♡
愛しています♡



いやーわいは
皆を変えた
憎むべき
敵だったわけや

その敵が
運命の相手…
悲しいな
うたちちゃん

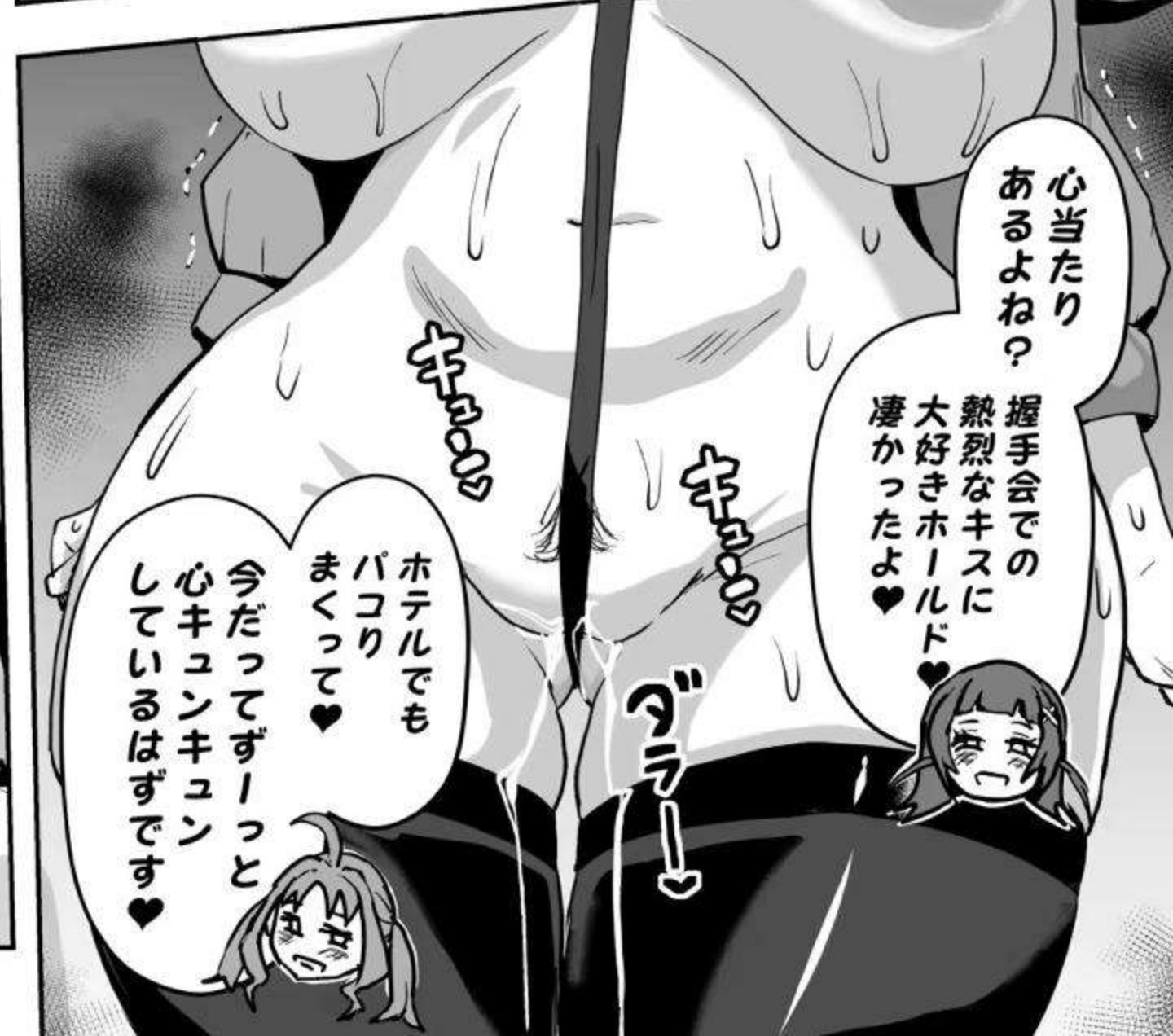
今日は私から
お願いします♡

もう
私から
だよ♡



な…に？
どういうこと？

うた先輩の
中にある
インモラルリボン
それは運命の
ご主人様を
選ぶんです♡



心当たり
あるよね？
握手会での
熱烈なキスに
大好きホールド
凄かったよ♡

ホテルでも
パコリ
まくって♡
今だっつてずーっと
心キュンキュン
しているはずです♡



なな先輩
お先に♡おっ♡
失礼します♡

ちんぽ♡

ほ♡

おじさんは敵...

まん肉はいつも
キュウキュウ
しまるわ♡

むー



まんこ♡
イクッ♡
イクッ♡

ラブラブ
ちんぽ♡
イクッ♡

運命の
ご主人様...♡



ん♡
好きなの♡

ご主人様が
好きすぎて
おまんこ
切ないよ♡

けど運命の
相手...

よしよし
ななも可愛いので
すぐズッコン
バッコンハメたる



ちんぽ♡

敵...

ちんぽ♡



あは♡



運命のご主人様♡
大好きなご主人様♡
好き♡
ご主人様♡
おじさんは敵だからダメ...
敵...
でもご主人様♡



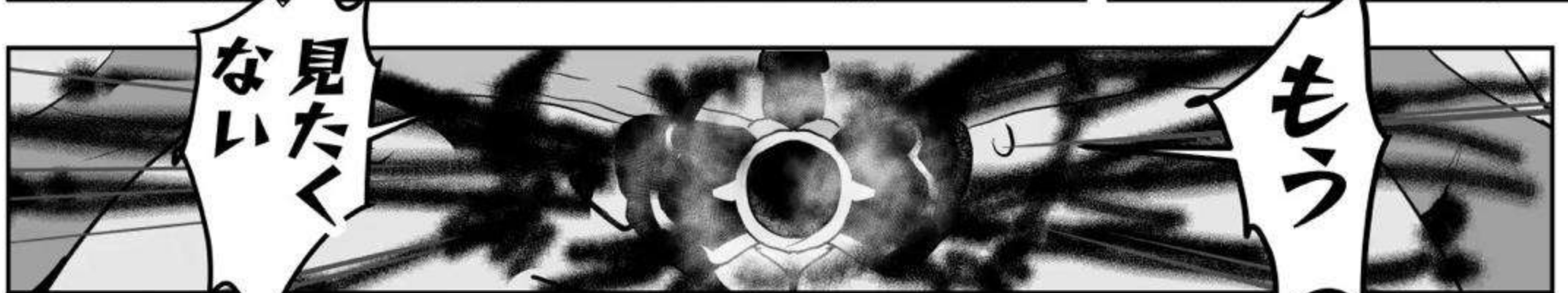
ご主人様♡
ペニサオ様は
うたちゃんの敵
とセックス
できないの♡

でも
ダメですよ♪

ちんぽ欲しくて
たまらない牝顔
してますね♡
先輩♡

そうやな
敵とは
できんなw





これが
新しい私♡
すっごく
キラッキ
ランラン♡

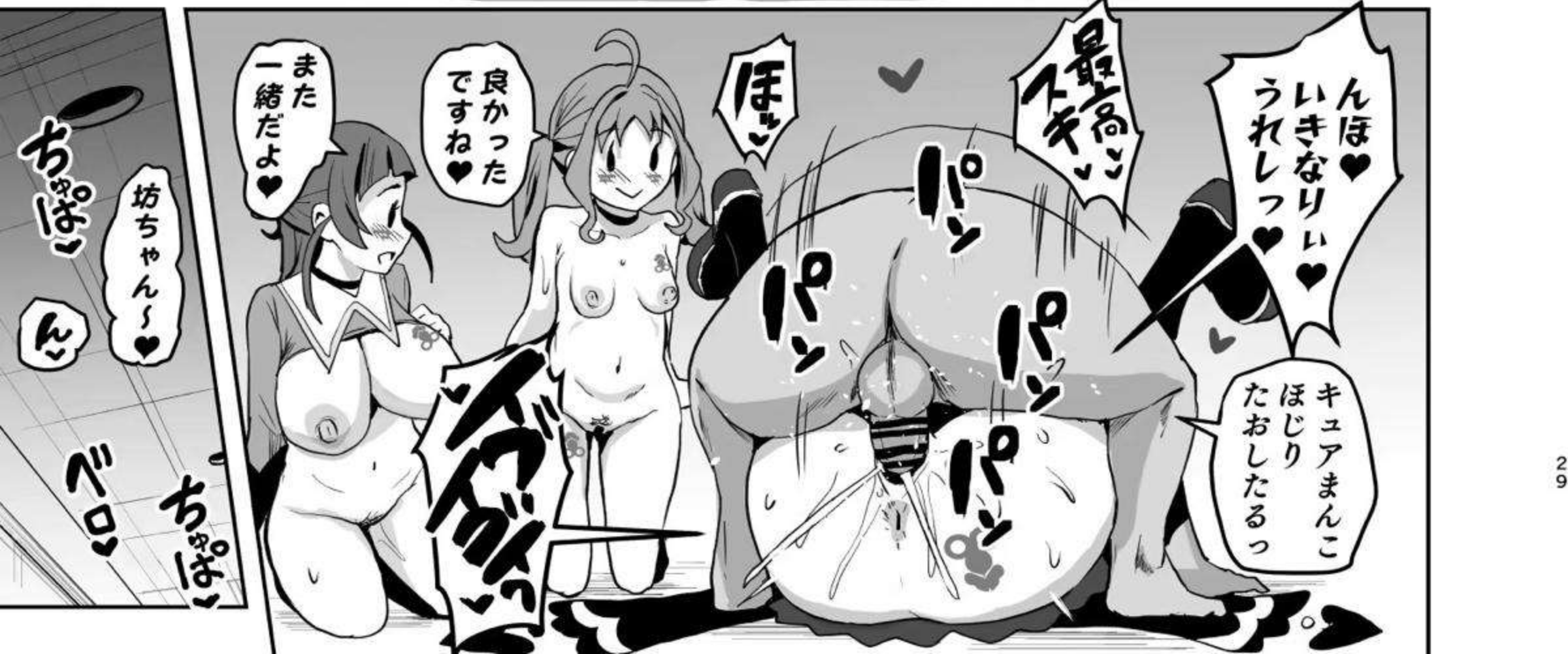
クク…
綺麗な姿や
よう
似合っとる



ご主人様のため
ゼーんぶ
奪って染めて
洗脳する♡

ハメてにっこり
キュアアイドル♡

愛しています♡



んほ♡
いきなりい♡
うれしっ♡
キュアまんこ
ほじり
たおしたるっ

また
一緒だよ♡

良かった
ですね♡

坊ちゃん♡
おはよう♡

おはよう♡
ミロ

坊ちゃんの
デカデカ
ひんぼウインナー
やっぱ♥

いいぞ
ぷりん♪

中のあつあつ
特濃エロ汁も
飲みたい♥♥
だひれっ♥

アッ
アッ
アッ

やめて
お姉さま

デカケツに
エロまんこ
最高だな♪

正気に
戻って…

キッスこそ
いい加減に
したほうが
いいよ♥

坊ちゃんには
勝てないん
だから♥

ザーメンきたっ
エロザー汁
イクっ♥

そうだぞ

いつまでも
いつまでも
いい加減に
しろよな

プリキュアは
全員墮ちるんだ
キュアアイドルも
お前も!!

ふざけないで
私もうたも
墮ちたりしない



強がんなって
それが
入らなくても
影響で体は
エロくなってるんだ

俺のちんぽ
欲しいだろ♪

バカ言わないで
そんなことない

なら勝負
しようぜ
セックス勝負

お前が勝てば
何でも言うこと
聞いてやるよ
負けたら
俺のな



言ったわね
いいわ受けて
立ってあげる

へへへん
よし



じゃあ
ベッド
行こうぜ

ス
ル
ル

見てろよ
即堕ちさせて
やる♪



わっ



?

フッ







ぶちのめして

あげる♡

ニヤニヤ♡



おしまいだね♡
キッス♡

坊ちゃん♡
ちんぽでとどめ
さしてあげて
下さい♡

エロちゃんぽ
カッコよくて
キュンキュン
します♡

ガチガチの
オス全開で
素敵♡

〜
〜



アイド...
おっ♡

おねえ

運命のちんぽ
キラッキ
ランランだから
楽しんで♡

インモラル
リボンも
反応してるね♡

ごんごん



キュア
キッス

してやるぜ
俺のモノにな

んん

んん

ちんぽ♡

やめっ♡
ほっ♡



へへん

約束通りの
セックス勝負
だな

ねえ
待って
待って♡

お願いします♡
待ってください♡
ちんぽ待っ...

負けねえぞW

ドギョーン

ぽんぽん♡





ん♡ゆびほじ
いいっ♡

お姉さま
見て♡私の
スケベ見て♡

ちんぽ
いい♡
イクっ♡

堕ちた皆と
感じる

肉欲と絆♡



必死に
腰振って

ちんぽ汁っ♡

ぽん

だして♡
だして♡
好きっ♡

皆を
追いかけるのは
私の私

坊ちゃん
ちくび
エッチです♡

いいぞっ
めろん♪

甘く心地よい
あなたへの気持ち
もう他に何も
いらない♡

でそ

よし
ぶっかけて
やるから
舌だせ

は♡

おひんぼ
汁♡

あ♡

へ♡

何もかも
捧げる愛が

好き♡
イク♡

私の全てを
変えるのをおお♡

好き好き
好き好き
好き好き♡

きたか
やったぜ♡

大好きメロ♡
私の
ご主人様♡

♡

キッス

ん♡

♡

♡



キッス♡
やったね♡

すっごく
エッチ…♡

クク

んももも
ももも

良かった♡

はい♡坊ちゃん
私のご主人様♡

皆に見せて
やれよ俺の
キッスの姿

ほらいつまでも
舐めてないで



ご主人様のため
ハートをメロっと
ドスケベ洗脳♡

ちんぽに
ロづけ
キュアキッス♡

お姉さま
みんな
よろしくね♡





この前正式に
マペニの奴隷
都市に
なったから

ますます
交流も盛んに
なったよね♥

喫茶
グリッター

cafe glitter

はい♥いたる
ところでスケベ
しまくりで

おまんこ
キュンキュン
してます♥

ご主人様♥
しゅき♥
ボテまんこ
もっとほじって♥

うたと一緒に
ご主人様と
ボテ腹セックス
最高!♥

母娘孕ませて
親子丼
たまらんわ!

ええのー

ふー
次はうたの
ボテまんこの
番や

キラッキ
ランラン♥
お願い
しましゅ♥







マジボテ腹
祭りじゃん♪

パパ
流石だぜ
分かってる!!

はげしっ
坊ちゃん
ちんぽ♥

私達♥母娘の
発情孕みまんこ
いっぱい味わって
下さい♥

奥届くっ
おっほ♥



そうやろ
そうやろ♪

今日は
ボテハーレム
堪能するで

あん♥ご主人様
ちんぽあつい♥
いっぱいザー汁
又いてください♥

赤ちゃん
ビクって♥

これがママを
孕ませたパパの
おちんぽだよ♥



プリキユア

ドスケベ
ライト
アップ♡

ご主人様に
永遠に絶対の
忠誠を♡

ワイアー
ドスケベ洗脳
アイドル
プリキユア♡

私達プリキユアが
ご主人様のため♡

これからも
この世界を
もーっと♡

おちんぼ様♡

ハメて
ください♡

キラッキ
ランランに
していきます♡

おわり♡

男の名はマイルズ。

大きな身体と黒い肌に仰々しい入れ墨を入れている。

アイドルプリキュアとはまったく相容れない類の人間だ。

そんな男が我が物顔で、うたのお尻を揉んでいる。人気のなくなつたアイドルプリキュアを助ける名目で、母親達が彼にアイドルプリキュアのリスタートプロデュースを頼んだからだ。

それだけでなく、ケツドルママキュアとして、3人でデビューまでさせてしまった。

彼女達はマン筋やケツ穴まで透けて見える際どい衣装でお尻を振る、今一番HOTなアイドルだ。

もうアイドルの世界はかつてうた達が憧れたような綺麗びやかなものではなくなった。

マイルズが業界に入ってきて以来、色鮮やかで可愛いコスチュームは敬遠され、漆黒の際どいエロ衣装が持て囃されるようになった。

しかもその姿は狙つたかのように、ダークイーネを模している。

対局にあるアイドルプリキュアが舞台上に上るだけで、会場が白けるばかりかブーイングの嵐になっている。

「お前あのババアに偉そうに言ったんだよなあ〜？ 闇も光もそのまま受け入れるってな。一緒にいればキラッキランランとか抜かして。」

あのババアをそれで誑かしたんだろ？」

マイルズがうたの耳元に囁く。

ダークイーネとの決戦の時。

彼女の冷たい心の溶かしたうたの言葉。

それをこれ見よがしにマイルズは嘲笑う。

「光がぶっ飛んで闇塗れになつたって考えは同じだろ？」

全部、受け入れろよ。

俺のプロデュースに間違いはねえ。

母親どもと同じ衣装を着て、同じようにケツを振って媚びるんだっ！！

そしたらよお〜！くくくっ！！

またアイドルに戻れるぜっ！！

「う、うた先輩をこれ以上虐めないでくださいっ！！」

今度はこころが声を絞り出す。

だがすぐさま母親の愛が駆け寄つた。

「もう貴方がキュンキュンしないとか言いながら、ご主人様考案の衣装に袖を通さないから先輩が困っているんでしょ？」

お手本を見せてあげなきゃ。お母さんみたいに♪

でも……睦美のところのお嬢さんはちゃんと“言うこと”を聞いてくれたみたいだけど」

「えっ……！？」

未亡人で自分の苦勞を顔に出さず子供をいつも励ましていた愛が、邪悪に微笑む。

ご主人様であるマイルズがどうすれば一番喜ぶかを心得ているのだ。

そして先手を取られた蒼風睦美は苦々しく顔を歪めたが、すぐに気を取り直して、娘の両肩に手を置いた。

「そうそう♪

可愛かったわ。鏡の前でお尻フリフリ練習したのよね。

頬を赤くして……初々しい姿に、お母さんも一緒にお尻を打ち合わせちゃったけど。

とにかく素敵だった♪

どう、ここでお披露目してみる？皆の前で」

「えっ……そんなこと……」

自然にななに皆の視線が向く。

ななは顔を伏せて何も言えなくなった。

「そうだった！そうだった！！

ななは心を開いてくれていたなあ〜！

ははっ！母親と並んでするケツ振りのムービーを見たよ。

素晴らしいケツ振りだった。

君が一番先に“目覚めて”くれそうだ。

期待しているぞ」

マイルズはななの後ろに回り込むと、彼女の肩を親しげに揉んだ。

「い………いたい……」

身をすくませるななに、睦美は顔を顰めた。

「もお！違うでしょ！」

「ご主人様に揉んで頂いているんだから、お尻を振って感謝しないと！」

座ってなんて居られないはずよ。

さあ、立ちなさい。

そしてえ……うふうっ♪ご主人様に媚びなさい♥」

娘に怒りをぶつけながら、睦美は自分がクネクネと腰を動かしてお尻を振っていた。

パシャパシャッとカメラの撮影音が響く。

「さすがですわ、陸美様♥

ああんっ♪デカ尻に豚の文字が揺れてえ……♪

こんな間近で見れて撮影出来るなんて光栄ですわあ

っ♥はあんっ♪」

「わ、わたし達もお招き頂きありがとうございます♪

うたちゃん達の間抜け面も写真に撮っておきますね。

あっ……キュアアイドルだったっけ♪」

ママキュア達が入って来た時に後ろに待機していた女子がソロソロとけっして広くない部屋に押し寄せ

る。

その先頭は甲斐ちよだ。

生徒会長としてアイドルプリキュア研究会を応援す

ることを決めた彼女だったが、この数ヶ月ですっか

り心変わりしていた。

それはマイルズが視察と称して、はなみち中学校に

来てからだ。

アイドルプリキュア研究会の初期会員で、うたのク

ラスメイトの東中みことも同じだ。

ちよや他の研究会の会員と「応援の仕方を見直す」

と個室に連れ込まれてから全てが変わってしまった。

みことは、うた達以外の全員でアイドルプリキュア

研究会を抜けることを決め、すぐに「ケツ振りアイ

ドル研究会」を発足させたのだ。

勿論、生徒会長のバックアップ……もとい彼女も参

加する形だ。

今はケツドルママキュアの卑猥な写真や応援ポスタ

ーを、学校中に貼ることを活動内容にしている有様

だった。

「み、みこと先輩にちよさん！

本当に目を覚ましてくださいっ！

こ、こんなの……ひどいですよ……！」

こころが涙目で二人や、元会員達を見渡す。

だがその誰もが、必死なこころを鼻で笑い、見下し

ていた。

「ふふっ♪くだらない感傷よ。

ご主人様の為にケツを振って、ご主人様の為に応援

をする……

それ以外はゴミですわ♥

こころさんも学校でいっぱいケツ穴ほじって気付い

たでしょ？

気持ちいいってアへってたじゃない♥」

「そうね、うたちゃん達に秘密の女子トイレ特訓を

ここでお披露目しましょうよ♪

ほら、こんなにぶっといアナルバイブを突っ込める

ようになったんだって♥

今もわたしがあげたバイブを挿れてきてるんでし

よ？

スカートめくって、お尻フリフリしよ♥」

邪悪な笑みを浮かべて、ちよとみことがこころを嘲

笑う。

こころは狼狽して、机に乗り出した。

「そ、それは言わない約束だったはずです！

や、やめてください！ま、まだうた先輩達は何も。

しきゅうっ♪な、なんでっ……！」

あくうっ♥しゅいっちがあ、ひゃいってえっ♪」

ブブブブ……

と大きな機械音が響くと同時に、こころが悶え出し

た。

立ってられないぐらいに腰をモジモジと動かして

いる。

「実は遠隔操作が出来るように仕込んであったの♪

いつでもこころを虐められるように♥

でもこの後、アナニーするつもりだったんでしょ？

手間を省いてあげたわ♥」

「うんうん。こころちゃんってば、ご主人様の御姿

を見ただけでお尻をモゾモゾとさせてましたから♥

アナルバイブのスイッチを入れたくて仕方ないって

感じて」

「ち、ちがいましたしゅうっ♪

んひいひいっ♥

と、止めてくださいしいいっ……じゃないとお♪

わたしいいっ……♥」

「盛大に潮を吹いてメスイキしまっか？」

お前の下品なイキ顔は傑作だから、コイツラに生で披露するのは最高だと思っぜ！
うただって見たいだろお〜？」

マイルズが高笑いしながら、今度はまたうたの後ろに歩み寄った。
うたがビクツと怯える。

だがそんなうたを素通りして、マイルズはめろんとぷりんの間にその大きな身体を入れ込んだ。
二人は迷惑そうに椅子を引きずってスペースを開けようとする。

「おいおい、邪険にするな。
二人も重大発表があるだろ？」
その為に、みことやちよを呼んだんだからよ〜」

ぷりんはハッと気付いたように、隣のうたを見る。
不安げな視線。
この数ヶ月、裏切られ続けた彼女は怯えているのだ。

（わ、わたしが……うたを守らないとプリっ。
その為には……）

「わたし……めろんは……
お姉様と共に、アイドルプリキュアと兼任する形で、新しいアイドルグループ……」

マイルズ様の作った……花咲くケツ穴ミチミチ系アイドル、ハメキュアに参加することになりました。
アイドルプリキュアの活動を疎かにするつもりはありません。

ですが……あううっい、いきなりいっ
そこ弱い……メ、メロっ♥

めろんが話している最中だというのに、構わずマイルズは彼女の首元から腕を突っ込んでおっぱいを弄った。

同様にぷりんのおっぱいも揉みしだく。
服の上からでも、マイルズがその太い指で乳首を転がしているのが分かる。

「ふ、二人が……
ハメキュア……!?」

うたの驚愕がぷりんにも手に取るように分かった。
ここ数日、大々的にマイルズが宣伝していた……
ママキュアを超える超下品系アイドルとして予告していたグループだ。

敢えてケツ穴を晒すことで放送コードや、動画共有サービスのセンシティブに風穴を開けると宣言し、話題になっていたからだ。

アイドルプリキュアとは真逆すぎるコンセプトを突き詰めたグループにめろんとぷりんが加入する。
それは裏切り以外の何者でもない。

「ピカリーヌ、チョッキリン、ダークイーネの名前も考えてやらねえとな。
まあ、安直にひかり、はさみ、いいねでいいかあ？
ぎゃはははっ！」

お前らキラキラランドとクラクラランドの繋ぐアイドルグループだから、責任重大だぞおっ！」

机の上に、みことが持ってきていた資料を広げる。
そこにはすでにお尻が丸出しな格好をしためろんとぷりん。

そして人間態になったピカリーヌ、チョッキリン、ダークイーネが自分の尻たぶを両手で掲げ、高く掲

げる無様な姿で写真に映っていた。

「嘘……だよね……」

うたが震えている。

ぷりんはすぐにも抱きしめて慰めてあげたい。
でもおっぱいを鷲掴みにされていて、それどころじゃなかった。

「アイドルプリキュアも俺の指導を受け入れて、やっと再始動って感じだな。
だがはな……お前は本当に遅れてるぞ。
何か出来ることを考えたか？
ここで皆を前に発表しろ！」

「……」

うたにはマイルズから、宿題が出されていた。

今の過激なアイドル業界に沿うコンセプトで、新しいアイドルプリキュア案を考えろと。
うたは、もっとキラッキランラン出来る、可愛らしい衣装を必死で描き続けていた。

例え、流行に乗れなくてもそれが、うたがしたいアイドルだからだ。

そしてマイルズがどう言おうと、なな、こころ、ぷりん、まろんの4人なら受け入れてくれると思っていた。

クシャッと机の下で、プリキュア案が描かれた紙を握りしめながら、うたは大粒の涙を流す。

「う、うたっ……」

くううっ♪マイルズ様っ！
離して……ど、どうかあ……ああんっ♥

「お姉様もわたしも……
逆らえない……あふうっ……♪
この人からは……♥」

「うたにまで酷いことばかりいっ……
も、もうやめてっ。
うたがケツ穴拡げてるどころなんてえ……♪
んんっ♥見たくないのに……」

「うた先輩いいっ♪
みたいでしゅうっ♥考えてきたのおおっ……
んんほおおっ♪ケチュ穴ああっ……♥」

ぷりん、めろん、なな、こころがそれぞれに悶える。
全員がうたの事を思いながら、マイルズの呪縛から
逃れられずにいる。

うたにも分かっていた。

“自分がどうすればいいか”

考えるも何も、マイルズとお母さんから“答え”を
教えて貰っていたからだ。
でもそんなこと出来ない……

絶対、無理。

イヤ、イヤ、イヤ、イヤ、イヤッ……

「うたっ……」

お母さんが心配して叫ぶ声が聞こえる。
その声色はいつもの優しいお母さんのものだ。

涙に揺れた視界が歪む。

うたは椅子から崩れるように倒れ込んだ。
そして地面に頭を打つ前に優しく抱き抱えられる。
その手がカイトさんのものなら、救われたかも知れ
ない。

大きく暖かい……いつもお尻を弄ってくるその手。
天井とマイルズの下品な笑顔に絶望しながら、うた
は意識を失った……

—————

再び目を覚ました時は、よく知っている天井の下だ
った。

制服は脱がされ、ちゃんとパジャマを着ていた。
お母さんが着替えさせてくれたみたいだ。

「んんっ……」

指の先がネットリと濡れている。

目の前で指を開くと、月明かりに照らされてツート
糸を引いた。

「わたし……また……」

うたはフラフラと立ち上がった。

上着は着ているが、うたは下半身に何も羽織ってい
ない。

お尻をむき出しのまま、部屋から出てリビングに向
かう。

喉が乾いた。

時計は見ていないが、まだ深夜でもないのに咲良家
は静かだった。

ただリビングからテレビの音が漏れ聞こえている。

リビングに入ると妹のはもりが、ペンライト片手に
はしゃいでいた。

「お姉ちゃん♪お母さん達のライブが始まるよ〜♪
早く早く〜♥」

はもりがうたに、ペンライトを渡してくる。
これからテレビ越しに応援するのだという。

はもりもお尻が丸出した。

その可愛いお尻をフリフリとして、ライブの開始を
今か今かと待ちわびている。

(わ、わたしも、こ、こんなふうだったのかな)

荒んだうたの心に、はもりの純粋さが優しく響く。

だが直後に始まったのは、見るも悍ましい光景だっ
た。

スポットライトに照らされて、5つ並ぶデカ尻がひ
しめき合っていた。

それをドアップで映す。
両手で拡げた尻たぶのせいで、それぞれの菊門がま
る見えになっている。

「なに……これっ……」

「では花咲くケツ穴ミチミチ系アイドル、ハメキュ
アのデビュー曲……」

『マイクじゃなくアナルパイプを突っ込んで』で
す!」

「」「」「マイクなんていらないわっ

「……!」

画面外でマイクを投げ捨てた5つの尻はさらにギョッとお互い寄せ合って、下品なお尻で映像を埋め尽くす。

タップとカメラの音声に、尻のひつつく音が歌を邪魔した。

「寂しい想いをさせないで。何もハマって見れば分かるでしょう?」

聞こえづらくても何の問題もない卑猥で救いようのない歌詞だ。

それをピカリーヌ、チョッキリン、ダークイーネ……ぷりんとめろんが艶っぽく大声で歌い始めていた。

「ケツ穴っ!ケツ穴っ!」

はもりが嬉しそうにペンライトを一生懸命に振る。もうこの異常な光景はアイドルにとって日常なのだ。はもりのような子でも、何の疑いもなく受け入れてしまっている。

「ハメキュアっ!ハメキュアっ!」

「「「「「そお!私のケツ穴っ。ミッチミチー!ケツ穴っ、ミッチミチッ!」」」」」
ホントはバイブじゃなく“貴方”のが欲しいけれど
おっ♪「「「「「」

歌詞にはないライブだけのアドリブパート。
5人が身体を起こして振り返って、顔を見せた。

今までお尻ばかりで顔を見せていなかったのは、アイドルとして最悪しベルだと、うたは思う。

上気したエロエロな笑顔を浮かべるダークイーネ達に挟まれて、ぷりんもめろんも同じ顔で並んでいた。

「「「「「今日はこれで『みんなと!』我慢するわ」」」」」

5人が持ち出したのはペンライト。
妖しく紫色に光るそれを高く掲げる。

そしてお尻の穴に全員が躊躇なく突っ込んだ。

「ひっ……」

うたは思わず引きつり声をあげた。

ジュブジュブッ!グチュグチュッ!と卑猥な水音を盛大にあげて、光るペンライトがケツ穴を出入りしている。

熱狂的なファンの歓声。

アイドルを冒瀆するようなケツ穴オナニーにインサートされる、ぷりんやめろん達のアへ顔。

狂っている……

全部、全部……おかしくなっちゃってしまっている……

「お姉ちゃん♪しゅごいねっ♪
これええっ……気持ちいいいいっ……♥」

目の前では感化されたはもりが、お尻にペンライトを突っ込んでいた。

うたは止めることも出来ずに棒立ちしている。

「お姉ちゃんもおお……しよっ♪」

「う、うんっ……」

自然と返してしまっていた。

渡されていたペンライトをお尻にあてがう。
又ぷりいっ……と少しの抵抗はあったが、お尻の穴がペンライトを呑み込んでいく。

「ハメキュアと一緒にいいっ♪
お姉ちゃんも……ケツ穴で気持ちよくなるおっ♥
おほおおっ♪」

はもりは跳ね上がるように喜ぶと、グチュグチュとケツ穴をペンライトでかき回す。

「そ、そんなにしたら……
ああっ♪だ、だめっ……♪」

うたも自分でペンライトを上下に動かしてしまふ。

普段からマイルズに弄られているせいか、その感触を思い出してなのか、とても心地よかった。

「お、お尻なんて……ダメなのに……
あううっ♪

こんなのキラッキランランじゃないの……」

自分に言い聞かせるように、うたはつぶやく。
でもその声色には、艶やかなものが混ざり始めていた。

「「「「「ケツ穴っ!」」」」」
ミッチミチッ!」

絶叫に近いアへ声を交えて、歌はいつの間にかクラ
イマックスを迎えていた。
うたはハツとして、画面に向き直る。

「「「「イクうううっ〜♥♥♥」「」「」」

5人は愛液を飛び散らせながら、お尻からペンライ
トを勢いよく噴射した。
轟音のような歓声。

「わたしもイクうううっ〜♥」

はもりも画面の中のぷりん達と同じアへ顔を浮かべ
ている。

「あっ……ああっ……」

うたは素直に出遅れたと思った。

お尻に突っ込んだペンライトに力が籠もる。

「「「わたし達、ケツドルママキュアも負けてられ
ないブヒいいいっ〜！
ブヒブヒブヒィィィッ〜♥♥♥」「」

豚鳴きしながら、鼻を指で吊り上げ3人のママキュ
アが颯爽と登場した。

「あっ！お母さんだっ♪」

はもりも目を輝かせてはしゃぐ。
新曲のコンセプトなのだろう。

お尻に書いた豚の文字に合わせて、ブヒブヒとけた
たましく鳴いている。

家族がこんなことを年甲斐もなくやっていたら、確
実に目を逸らさずには居られない。
少なくとも絶縁する。

「「「ケツドルママキュア！女の子はみ〜んな」

貴方”の前では『牝豚』なんだから！

ブヒブヒッ♥ブヒブヒいいいっ〜♥♥♥」「」

（“あの人”の前では……ってことだよね……）

ハメキュアが……ぷりん達がバイブよりも欲しいオ
チンポ様を持つ“貴方”は……

ママキュアが……お母さん達が恋い焦がれ、ケツを
振って媚びる“貴方”は……

それはきつと……

「お姉ちゃん♪お尻をこっちに向けて♥

はもりが書いてあげる♪

後でわたしのも書いてね。お揃い〜♥」

はもりが赤いペンを持って微笑んでいた。

うたは自然とお尻を彼女に向けてしまう。

そして妹の可愛らしいお尻に……どれぐらいの大き
さで「豚」と書こうかをテレビ画面を観ながら考え
ていたのだった。

—————

「いやいやっ！遅れてしまったね。

暴徒化したファンの醜いこと。

蹴散らすのも一苦労だったよ！

うたはどうだい？

いきなり倒れたからね。

心配していたんだ。

くっ！その様子だと……取り越し苦労みただけ
どなあっ〜！」

咲良家に勝手に上がり込み、うたの部屋に飛び込ん
できたマイルズは本気で心配した様子だった。

だが部屋でマイルズを待っていたうたを見た瞬間に、
ゲスい笑顔を浮かべる。

「わたし……思いついたんです……

まだ……お母さん達もやってないこと……」

シートをギュッと握りしめ、前を隠しているがうた
は、一糸まとわぬ姿だった。

その可愛いお尻は廊下から漏れる光に当てられて白
く美しく輝く。

そこには可愛い女の子らしい字で尻たぶに目一杯、

「豚」と書かれている。

マイルズは部屋にズケズケと踏み込むと、そのお尻
を遠慮なく驚掴みにした。

「ひゃ、ひゃうううっ……♪

っ、っよいいっ……やっぱりっ……

マイルズさんのケツ揉みは……うううっ♪」

「ご主人様だろ！

お前の母親と一緒にやりやがれ。

ほらっ……！言ってみろっ……！」

「ご主人様……」

うたは恥ずかしそうに目を伏せる。

初めて“ご主人様”と呼ばせることに成功したマイルズは上機嫌に「ヒュウウウッ！」と口笛を吹く。その股間はムクムクとズボンを押し上げていた。

「さあ、何を思いついたんだ？」

ベッドの上で聞いてやるから、ケツ穴処女を差し出せー！」

ムードも何も無い。

マイルズの指がケツ穴に食い込む。でもうたは抵抗しない。

それどころか顔を真っ赤にしながら、マイルズの股間を裏手で擦り始めた。

「ご主人様の協力が無いと出来ないけど……」

「いいぜ。何でも協力してやる！」

だが……アイドルプリキュアは今日限りで卒業だ。お前達5人は新しいグループに生まれ変わる！

その名前はそうだな……

キミの“ネトラレ”メスドルケツキュア！
何かどうだ〜！？」

うたは目を丸くして驚く。

そして全てお見通しとばかりに邪悪に微笑むマイルズのされるがまま、ベッドに押し倒されるのだった。

—————

「本当に出てくれるかな……
アイドルプリキュア……」

キュアアイドルのぬいぐるみを抱きしめた男の子が、熱狂的なファンの雄叫びの中でビクビクしながら母親に問いかける。

母親は困惑気味に何を言ったらいいか分からない様子だ。

「ケエ〜ツツ！ケツ〜ツツ！」

子供の煽りのような掛け声が渦巻くなか、男の子は涙目になっていく。

「大丈夫だよ、キュアアイドルは君を裏切らない」

男の子の頭を隣にいた青年が、力強く撫でた。

見上げる男の子に、青年は頷きながら微笑み返す。

「たとえどんなに闇深いステージにでも、
彼女はキラキラに輝く。絶対に」

響カイトの眼差しは自信に満ちていた。

例えば自身も落ち目のアイドルとして、事務所から圧力をかけられていたとしても、うたやファンを裏切るつもりはなかった。

それどころかマイルズからうた達を救う為に日々奔走していたのだ。

表舞台に出れなくなっていたアイドルプリキュアが、ママキュアとハメキュアとのタイアップとはいえ、ドームツアーに登場するとなれば、居ても立っても居られなかった。

運よく最前列組のチケットを取れたカイトは、うた達アイドルプリキュアの復活を心から固く信じてい

る。

会場の照明が落とされ、スモークが焚かれた。暗闇の中に人影が動く。

「キュア……アイドルかな？」
「いや……あれは……」
カイトの表情が曇った。
右舞台の3つの人影にスポットライトが当たる。
「「年増牝豚ケツドルママキュア！イキま〜すっ
♥♥♥
ブヒブヒヒィィィ〜♥♥♥」」
音、睦美、愛の3人がお尻をお互いにパンパンッと打ち合わせながら雄叫びを上げる。
お尻にデカデカと書かれた豚の字も3つ仲良く揺れていた。
「オオオオオッ〜！！」
割れんばかりの大歓声。
男の子は思わず耳をふさいだ。
カイトも顔を顰めて、壇上を睨む。
ママキュア達は“ごく一部”でしかない彼らの不快感なんて気にしない。
“大勢のファン”達に向かって、デカ尻を惜しみなく振り続ける。
「私が一番、デカ尻びひいいっ！！」
「いいえっ！私よっ！」

デカ尻ナンバーワンの座は譲らないブヒッ!」

「二人とも仲良くしましょう♪」

この後の人気投票で……すぐに分かるんだから
ぶひひいいいっんっ♪」

3人の視線が一段高い壇上に注がれた。
そこには一際長身の男が暗闇の中に立っている。

「まったく牝豚どもめ。

口が軽いぞ!

ケツは重たくて揉み心地がいいのに、脳みそはこれ
だからなく!

ああっ!全国のファン諸君。

私はプロデューサーのマイルズだ。

今日は私のプロデュースした3組のアイドル達によ
る人気投票をしようと思う。

皆はどのアイドルがお気に召したかを素直に教えて
くれ!

くくくっ!一番人気のないグループは解散だ!」

会場にどよめきが走る。

カイトは唇を噛んだ。

「この見世物の為に……アイドルプリキュアを呼ん
だのかっ!」

ほとんどの客はエロ目的で参加している。

正統派アイドルのアイドルプリキュアには勝ち目が
ない。

憤るカイトと不安そうな男の子に、マイルズが意味
ありげに流し目を送った。

「という訳で張り切れよっ!

キラキラランドとクラクラランドを統べるバカ尻ども
っ!」

「「「はいっ!」

ケツ穴ミチミチ!アイドルハメキュア!」
負けないわっ!」

左の舞台で立ちポーズを取っていた3人にスポット
ライトが当たる。

ピカリーヌ、チョッキリン、ダークイーネがほとん
ど生地のない薄い服装で身体のラインを見せつけな
がら、忙しなくグチュグチュとケツ穴に挿したバイ
ブを上下させていた。

「ウオオオオッ……!」

またもやファンの歓声が轟く。
最早、熱狂的と言っている。

会場のボルテージは最高潮だ。

「盛りの過ぎた賞味期限切れの人間どもには負けは
しないっ!」

わらわ達こそが世界そのものなのだっ!」

あひいっいんっ♪ケツ穴バイブ利くうううッッ
っ!」

偉そうな口調でイキリ倒してから無様墮ちするのが、
ダークイーネのキャラだ。

失笑と嘲りを受けることでメスイキしまくるマソ豚
だが、それなりにその変態ムーブも人気がある。

「まだ女王様気取りで偉そうなこと言うんじゃない
わよっ!

お前が一番最下層のバカメスだろうがっ!
んふうううっ♪ケツ穴バイブうっ、最高おおっ
っ!」

「自分だけ目立とうとするのは見るに耐えませんが。
人間の方々もきっと思っているでしょう?」

さあ、皆さん見て下さい♪

私達のケツ振りダンスをおおっ!」

バイブをぶっ刺したままのお尻を高く掲げ、高貴な
3人とは思えない痴態を晒す。

「こんなの……こんなのって……」

「人前で見せつけるように……女性をっ!」

男の子はさらに動揺し、涙目になった。
カイトもらしくなく声を荒げる。

その怒りはマイルズに向かっていた。

全ての首謀者……

この変態的なブームを作り出した男。

支配者のように壇上で振る舞うマイルズに、カイト
は憎しみを抱いていた。

だが歯ぎしりをした音を聞いた瞬間。

同じく闇に落ちた親友、カズマの事を思い出した。

(違う……君を応援する姿や気持ちは……
こんなのじゃない)

カイトは舞台を向き直り、キッと決意を秘めた真剣

な顔をする。

そして青緑色の光を迸らせた。

壇上の悪鬼達に負けない希望の光を。

「お、お兄ちゃん……!?!?」

男の子は目を輝かせて、カイトを見上げた。

「プヒィィィッ!」

忌々しい光ねっ!!

私達よりも目立とうとするなんてっ!!

「ケツ穴バイブも挿れてないくせに、偉そうにするんじゃないわよっ!!!」

ママキュアやハメキュア達もその光に気圧されながら、悪態を吐く。

会場ではファンたちからブーイングがとび始めた。

「プウウウッ~~~~!」

それでも、カイト……キュアコネクトは手を伸ばす。

「来るんだ、アイドルプリキュア。

ハートの絆で皆の荒んだ心に、愛を取り戻すんだっ!!!」

「そうだね、カイトさん。

ありがとうお〜♥」

スポットライトがマイルズの真横に注がれた。

そこにはいつもと変わらない姿のキュアアイドルが、キラキラの笑顔で立っていた。

「キュアアイドルだっ!!!」

男の子の表情がさらに明るくなる。

希望に満ちたその瞳。

それはカイトも同じだった。

陰惨なステージの中で、美しく輝くキュアアイドルに思わず頷いた。

「でも、そんなのじゃキラッキランランじゃないかな〜♪

もっと貢いでくれなきゃ、わたしの処女マンコはあげれないよっ♥」

「……えっ?」

ウィンクをして、屈託のない笑顔を返すキュアアイドル。

そしてくるりと可愛く回ると、お尻をカイト達に向けた。

何も履いていない、綺麗な尻を惜しげもなく晒す。

会場のモニターいっぱいにはキュアアイドルのお尻がアップで映し出された。

脚には凄まじい量の使用済みコンドームを吊り下げている。

精液がタプタプと中で揺れた。

キュアアイドルは元の衣装のまま、変態的な露出行為に及んだのだ。

だがそれだけではない。

男の子が絶句する。

「なに……あれっ……」

プピュルウウッ~~~~♪プピュピュ~~~~♥♥♥

「はううっ♪漏れてきちゃうっ♪♥

せっかくご主人様にケツ穴いっぱい注いで貰ったキラッキランラン♥

ダメなのに……とまりやないいいっ♪」

キュアアイドルはアへ顔を浮かべながら、尻穴から精液をひねり出した。

あまりに扇情的な光景だった。

ママキュアやハメキュアのようなエロ衣装じゃない彼女の……淫れる姿。

「ははっ!

いくらでもぶち込んでやるさ。

“俺だけのアイドル”うた」

マイルズは勝ち誇り、キュアアイドルのお尻を揉んだ。

またプピュルウウッ~~~~♥と精液が飛び散る。

「やあんっ♪ご主人様、尻揉みありがとうお〜♥

このまま皆の前でハメハメして欲しいなあ〜♪ “ご主人様だけのアイドル”だって、皆に思い知らせてあげたくいっ♥♥♥」

キュアアイドルはマイルズに枝垂れかかりながら、

客席に流し目を送る。

カイトや男の子同様に、会場は静まり返っていた。ただただショックを隠せないように。

それはそうだ。

清純で憧れだったアイドルが、男にネトラしたのを



下着-竹-様
使用済♡

使用済♡

見せつけられたのだから。

「アヘアヘア♥Loveプリキュア♥♥♥」

「ハメハメハメ♥You Loveプリキュア♥♥♥」

「キミの”ネトラレ”メスドルケツキュア♥♥♥」

「笑顔Light UP！イエ〜スイツ♥♥♥」

ブピユルウー！ブチユルウウウツ……♪

暗闇の奥からキュアウィンク達4人も歌いながら現れた。

それぞれに挑発的にお尻を振り、惜しみなくケツ穴から精液を吹き出す。

阿鼻叫喚の地獄のような光景。

男の子はあまりのショックに倒れ込んでしまった。カイトですら、涙目になっている。

「キラッキランランっ♪ハマろう♥

さあ幕開け、NTR！

ネトラレは(ニッコリ♥)

ドマゾの(ドッキリ♥)

ステキな第一歩♪」

投げキッスをしながら、キュアアイドルは蠱惑的に微笑む。

その時だった。

観客席から、また割れんばかりの歓声が響き渡ったのは。

「スゲエエエッ！！ウオオオオオッ〜！！」

アイドルプリキュア……堕ちたメスドルプリキュア達に凄まじい勢いでサイリウムが振られた。

「おっと！」

私に公開ケツハメを強請るような牝豚達に皆さん、キラキラが止まらないようだ。

キミの思った通りだ、うた」

執拗に本名を晒しても、キュアアイドルは怒らない。期待に胸を弾ませて、お尻をマイルズに向けた。

「じゃあシテくれるの？」

うわあっもおっ♥

キラッキランランが止まらないいいっ♥♥♥」

「ずるいですよ！うた先輩っ！

私達も、もっとおっ♥」

「ええ、うただけじゃ……

ご主人様を満足させられないわ♥♥♥」

同じく精液をケツ穴から垂れ流しながら、こころやなな、ぷりんにめろんがお尻を突き合わせて並ぶ。征服者にのみ許された光景。

5つ並ぶ牝尻たち。

それも、大型モニターに映し出される。

アイドルの最大の禁忌。

“誰かのもの”になること。

それをファンの目の前で見せつける。

キミのアイドルがネトラレるのを。

うたとマイルズが考えた……究極のファンサービス。

「くくっ！どれにしようかなあ〜？」

チンポを出したマイルズがそれぞれのお尻をデカマラで叩いていく。

もうキュアコネクトも光を喪っていた。

カイトはただ絶望して蹲る。

キュッと股間を押さえながら。

「だ、だめだ……ああっ……」

そんなカイトを見下ろしながら、お尻を振るキュアアイドルはニッコと屈託のない笑顔を浮かべた。

その直後、マイルズが「キミに決めたいっ！」と彼女にぶち込む。

「おほおおおっ♥♥♥

ケツ穴いっぱいいいっ……オチンポ様キタアアアっ〜♥♥♥」

スマイルがアへ顔に歪む。

永遠に手に入らない”推し”なのに、ファン達の鬱勃起は最高潮に達していく。

だが彼らは知らない。

自分達が圧倒的に勝てない男。

それが最高のエッセンスになるということを。

マイルズの射精でケツ穴から揃ってザーメン噴水をするキュアアイドル達を見た時に、ファンはどう思うだろう？

うたは今から胸の高鳴りが止められない。

伝説のステージは今から始まるのだから……

あとがき

キミプリ本お手に取って頂きありがとうございます！！
前年描こうと思いつつあまり描けなかったのがつつり
描かせて頂きました！！

なんか中途半端な部族もの感も漂っていて、どうするかかと
迷ったんですが(部族ものにするつもりはなく)まあ
これはこれでいいかでそのまま突き進んだ感じですw
映画のアイアイ島を絡ませた設定にする予定もあったんですが
尺が足りず、最後にテラちゃん出たのはその流れです。

顔紋や今回アイドルとキッスの二人以外堕ち済み
ということで合う合わないもあるかもですが
ちょっとでも楽しんで頂けていたら嬉しいです。

暖かくなってきてテンションもあがっているので
夏コミ目指してまた頑張ります！！良ければ
またお付き合いのほどどうぞよろしくお願いします！！

さなつき

奥付け

- 発行・著者 さなつき
- サークル アヘアジフ
- Email neko998-aheaji@yahoo.co.jp
- Pixiv 41042507
- Twitter @sanatuki0510
- 印刷 ねこのしっぽ様
- 発行 2026/4/25

キミの○○○○メスドルケツキュア♪
～ケツ振り再チャレンジ牝豚アイドル♪～

- 著者 日高久志
- pixiv <http://pixiv.net/users/4853918>
- ノクターン <http://xmypage.syosetu.com/x8371q/>

日高さんがとう
今回もありがとうございました！！

制作
アヘアジフ

この作品は
二次創作であり
原作とは一切関係ありません

複製を禁止する



便器

ご主人さま